

第1回 旭川内山下構造検討委員会 議事要旨

■ 日 時 : 平成29年11月17日(水) 13:30~16:00

■ 場 所 : 岡山県立図書館 2F サークル会議室

■ 出席者(敬称略、50音順)

<委員>

稲田孝司(岡山大学名誉教授), 竹下祐二(岡山大学大学院環境生命科学研究科教授)

田中哲雄(日本城郭研究センター名誉館長), 前野詩朗(岡山大学大学院環境生命科学研究科教授)

・ 議事概要

1. 委員会設立趣旨, 委員会規約, 公開規定

- ・ 委員会設立趣旨, 委員会規約, 公開規定を承認した。(平成29年11月17日付で施行)

2. 委員長選出

- ・ 篠原委員が欠席のため, 次回委員会で審議することとした。

3. 議事

- ・ 事務局から(1)河川改修計画, (2)現地状況, (3)堤防構造案について説明。
- ・ 河川護岸(石積み)は, 国指定の史跡範囲外ではあるが, 岡山城の城郭の一部であることを確認。

【主な意見】

- ・ 今回の対象範囲は, 河川整備計画の整備範囲のうち上流側のみであるが, 下流側の整備について検討する際には, 連続性を考慮願いたい。

4. 現地視察

- ・ 内山下箇所(石垣)の現状, 各案の起点・終点等, 現地状況を確認した。

【現地視察後の主な意見】

- ・ 石垣の上部等は改修されているが, 古いお城の遺構を残していると考えられる。現在の遺構の基礎部分がどのようになっているのか, 改修によりどういう風になるのかを工事前に調べて欲しい。要所要所にトレンチを掘り, 現地を確認して現況を記録して欲しい。
- ・ 第1案については, 石垣の位置がわかるような表示や工夫があれば分かりやすい。
- ・ 比較表(P34)に比較項目の検討を増やす必要があるのではないか。第2案については嵩上げ後の安全度など堤防としての機能を発揮できるか。施工性や経済性も記載すべきである。
- ・ 第2案については, 構造上安定するのか確認が必要。また内側に食い込むので現在整備箇所に影響がある。
- ・ レーザー測量をして現況の立面図を作成し, 立面図ができたら, トレンチを実施することが必要。
- ・ 第1案と第2案のパスについては, イメージの違いがわかるようにして欲しい。
- ・ 河川工学の観点からは, できるだけ前に出す(河積を埋める)ことは避けたい。
- ・ 治水上の支障の有無を確認するために, 数値的な根拠資料を出して欲しい。水位の情報や基礎部の当りでのどの程度の流速が出ている確認が必要。流速に対する評価や張コンなどの対策の要否に

についても確認が必要。

- 第2案の費用（2800万）は安いですが、大洪水に対して安全なのか確認が必要。破堤すると鬼怒川のようになる。
- 弓櫓の付近の前出しのイメージがわからないため、横断図を追加してほしい。
- 第3案は、改修の影響が大きすぎるため今後の検討は不要、第1案か第2案で比較検討すべきと考える。
- 県庁から京橋の間も石垣であり、岡山城とのつながりを含めて一連で考えないといけない。
- 後世の人がよいと思うように現時点でいいものを作ればよい。埋めて新しく作ることは悪いわけではない。

以上